

Asia Indicators

発表日: 2022年8月12日(金)

韓国、若年層の雇用環境は引き続き厳しい展開 (Asia Weekly(8/5~8/12))

～台湾の輸出は世界経済の回復が追い風となる展開が続くも、中国本土との関係悪化の影響に懸念～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

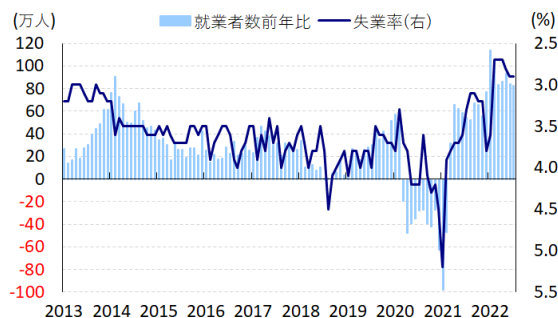
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/5(金)	(台湾)7月消費者物価(前年比)	+3.36%	+3.51%	+3.59%
8/7(日)	(中国)7月輸出(前年比)	+18.0%	+15.0%	+17.9%
	7月輸入(前年比)	+2.3%	+3.7%	+1.0%
8/8(月)	(台湾)7月輸出(前年比)	+14.2%	+11.7%	+15.2%
	7月輸入(前年比)	+19.4%	+15.9%	+19.2%
8/9(火)	(フィリピン)6月輸出(前年比)	+1.0%	--	+6.4%
	6月輸入(前年比)	+26.0%	--	+30.2%
	4-6月実質GDP(前年比)	+7.4%	+8.6%	+8.2%
	(マレーシア)6月鉱工業生産(前年比)	+12.1%	+4.9%	+4.1%
8/10(水)	(韓国)7月失業率(季調済)	2.9%	--	2.9%
	(中国)7月消費者物価(前年比)	+2.7%	+2.9%	+2.5%
	7月生産者物価(前年比)	+4.2%	+4.8%	+
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	0.75%	0.75%	0.75%
8/12(金)	(マレーシア)4-6月実質GDP(前年比)	+8.9%	+6.7%	+5.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～失業率は横這いで推移も、若年層に限れば雇用環境の悪化が続くなど厳しい状況は変わらない～

10日に発表された7月の失業率(季調済)は2.9%となり、前月(2.9%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比+2.0万人と前月(同+2.1万人)から4ヶ月連続で拡大しており、年代別では50代以上の高齢層で減少する動きがみられる一方、10代及び20代といった若年層を中心に拡大する動きがみられるほか、中期的な基調も減少ペースが縮小するなど底入れの兆しが強まっている。一方の雇用者数は前月比+1.9万人と前月(同▲6.9万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、年代別では10代及び20代の若年層を中心に調整の動きが強まっているほか、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの兆しがうかがえる。また、雇用者数を巡っては正規雇用を中心に底堅い動きがみられるものの、非正規雇用で調整の動きが強まっており、若年層の非正規雇用者に圧力が強まっている様子もうかがえる。10代及び20代の若年層に限れば失業率は6.8%と前月(6.1%)から0.7pt悪化したと試算されるほか、雇用者数も頭打ちの動きを強めており、若年層の雇用環境は引き続き厳しい状況が続いていると判断出来る。

図1 KR 雇用環境の推移



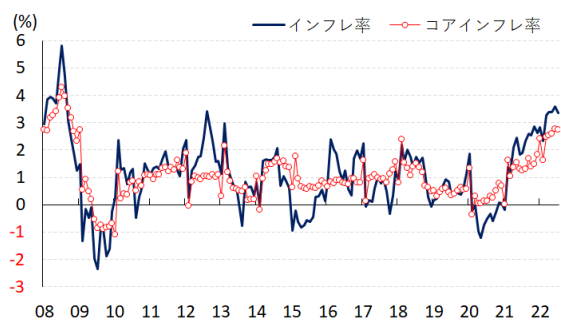
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～加速が続いたインフレ率に一服感が出る一方、輸出は世界経済の回復を追い風に底堅い動きが続く～

5日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+3.36%となり、約14年ぶりの高い伸びとなった前月(同+3.59%)から鈍化した。前月比も▲0.03%と前月(同+0.38%)から5ヶ月ぶりの下落に転じており、原油をはじめとする国際的なエネルギー資源価格の上振れを反映してエネルギー価格は上昇が続く一方、穀物などの商品市況の上振れを受けて上昇が続いた食料品価格は上昇の動きが一服するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.73%と前月(同+2.77%)からわずかではあるものの、伸びが鈍化している。前月比も▲0.01%と前月(同+0.06%)から13ヶ月ぶりの下落に転じるなど、インフレ圧力がわずかに後退しているように見える。一部の財価格に下押し圧力が掛かる動きが続いて物価の重石となっている一方、感染拡大一服を受けた経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価は上昇の動きが続くなどインフレ圧力が高まりやすい状況にある。

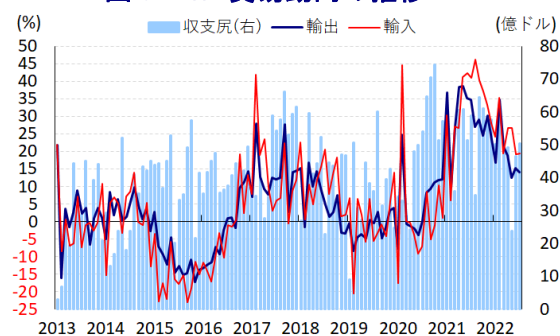
8日に発表された7月の輸出額は前年同月比+14.2%となり、前月(同+15.2%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.1%と前月(同+0.9%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、化学製品関連などを中心に堅調な動きが続いている上、米国やEU(欧州連合)などの主要国向けのほか、中国本土向けも堅調な動きをみせるなど世界経済の回復の動きが輸出を後押ししている。一方の輸入額は前年同月比+19.4%となり、前月(同+19.2%)からわずかに伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.9%と前月(同▲1.8%)から2ヶ月連続で減少するも、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連の需要が下支えされる一方、このところの国際商品市況の調整の動きが輸入額の下押し圧力となっている。結果、貿易収支は+50.34億ドルと前月(+46.40億ドル)から黒字幅が拡大している。他方、米国のペロシ連邦下院議長による台湾訪問を受けて、中国本土は台湾からの輸入に対する経済制裁を科すなどの報復措置に動いており、先行きにおいては輸出の足かせとなることが懸念される。

図2 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。